

糖尿病患者さんと共に歩む

神奈川県支部 副支部長
川崎市立川崎病院 糖尿病内分泌内科

津村 和 大

最近の新聞やテレビでは、「糖尿病」や「メタボリックシンドローム」という言葉が毎日のように見られるようになりました。それだけ「糖尿病」や「メタボリックシンドローム」の状態になっている方が多い訳です。

今、私たちが手に入れることのできる最新データは、2年前の平成18年11月に実施された「平成18年国民健康・栄養調査」の結果です。この調査では、「糖尿病が強く疑われる人」が約820万人、「糖尿病の可能性が否定できない人」が約1,050万人、糖尿病の該当者かその予備軍と推定された人の合計は約1,870万人に上ることが示されました。平成14年の調査の約1,620万人に比べ250万人(15.4%)増加し、40歳から74歳の男性に限ってみると、27.1%が糖尿病の該当者かその予備軍でありました。速報ではもう少し高く報告されましたが、これが「3人に1人が糖尿病もしくはその予備軍」といわれる根拠です。

同時に行われた調査では、糖尿病と同様に脳梗塞や心筋梗塞といった動脈硬化関連疾患のリスクを高める高血圧や脂質異常症についても報告されています。高血圧有りもしくは正常高値といわれる領域の方は、40歳から74歳の男性で59.1%、女性で43.4%に上りました。

これだけ増えている糖尿病や高血圧の方をひと

くくりにして捉えることには、強い違和感があります。糖尿病の方であれば、その病態や適切な治療は人によって随分と異なります。食事療法と運動療法だけで良好な管理が達成できる方もおられますし、一方でインスリンの注射が必須な方もおられます。食事療法に限ってみても、適切な栄養素のバランスや必要エネルギーには大きさ差があります。こうした「差がある」ことを度外視して、テレビや新聞で「○○を食べると糖尿病に良い」と報道されることはとても怖いことです。誤った情報は、時に患者さんの寿命を縮めます。私たちは、「ひとりひとりに合った情報の学び方」をお伝えしていきたいと願っています。

そしてもうひとつ。これだけ増えている中で「糖尿病である」ことをかくさないで下さい。糖尿病の中には、普段の生活習慣に全く関係なく発症してしまう病型もあります。「糖尿病である」ためにきちんと生活習慣の管理をされている方は、「糖尿病でない」ことから暴飲暴食している方よりも、胸を張って自信を持って生きて頂きたいと思えます。私たちは、「糖尿病である」ことと正面から向き合って頑張っておられる方が、誰よりも生きやすい世の中を創るために、皆さんと一緒に頑張っています。これが、私にとって「糖尿病患者さんと共に歩む」ということです。

一瞬を守る。あなたを守る。



清潔さと使いやすさが進化

血糖測定システム
メディセーフミニ New

- テルモならではのお手入れしやすいストラップとフラットデザイン
- 安全・安心設計と受け継がれたシンプル操作

病棟での測定をもっと安全に

穿刺ペン
メディセーフ **ファインタッチプロ New**

- 穿刺針の再使用を許さないリキャップ防止&再穿刺防止構造
- 使用後はイジェクターで清潔廃棄

TERUMO
人にやさしい医療へ

患者さんのより確かな安全のために、テルモは様々な情報をお届けしています

製品や糖尿病に関する情報はこちら

TELモ糖尿病ケアサイト
www.terumo.co.jp/mds/

お電話でのお問い合わせ窓口はこちら

TEL テルモコールセンター
0120-76-8150 (9:00-17:00 土・日・祝日を除く)